

徹夫、岸川得太郎、馬場判三、千住丈夫、秋山英二、辻伴四郎、村岡勝次、池田一郎、副島晋策、野田爲次、池上英吉、鍵山俊保、村島候種、黒田元吉、柿原喜作、犬塚五一、村富芳雄、副島儀一、永田安之、前間義雄、重松時彦、山口孝義、山口清治、成富篤、諸隈元、宮園義實、古川貞二、山崎謙一、橋野四郎、江口敬治、平山新作、西原嘉六、富永悦二郎、岳力太郎、江口康光、木下齊、松尾常保、中島寅之助、川原吉三、丸山憲之、犬丸市之助、山中一夫、小林覺一、稻富基太郎、萩原實一、千布浩、中山榮松本種男、石橋九州男、陣内雅雄、南里勝視、大寶代吉

▲今回卒業生今後の志望

高等學校二九 東亞同文書院三、高等商業學校一二、明治專門學校一、高等工業學校一二、私立大學二、醫學專門學校六、師範學校第二部四、高等農林學校二、水産講習所一、外國語學校一、實業五、商船學校一、其他三、陸軍士官候補生一五、未定六、海軍兵學校一〇、計一一三

●唐津中卒業生 唐津中學校にては三月二十日卒業式舉行せられたるが今回の卒業生は左の五十九名なりと

井上武、蓮尾卓、山田乾、吉原政智、美間坂剛太、池田鹿一、神崎梧樓、林直樹、岡崎嘉二郎、原口良雄(以上優等)徳久熊雄、有馬秀次郎、渡邊信吉、宮崎幸武、城愼三郎、鈴木邦武、岩本又藏、松永稔、千綿義勇、青木利重、井手琴四、田邊海音、吉田喜一、關根徹郎、石原義明、小園龍次、中島榮藏、林良輔、岸田永貫、櫻井與司美、森井壹岐男、八島族、秀島魁、堀田龍一、山邊濟、山田明治郎、筒井壽太、大木久、山崎鐵夫、石丸猛、松本豊治、外尾兼治、古賀貞造、吉田勇、黒岩政末、小濱憲男、落合健二、村山良策、丸田三好、山口吉見、小川定雄、山口軍次郎、安川日出男、藤野浩、蒲地兵治、堀田強兵、中江新一、吉原政敏、長田健作

●御大葬と佐賀縣

▲佐賀市の遙拜式 佐賀市の遙拜所は縣廳通りなる佐賀高等小學校校庭内に設け東北隅にも代々木

に面したる方に笹付の忌竹を樹て、周圍を圍み之れに注連繩を張り其の中央に祭壇を置き其上に一基の祭卓を備へ後方に砂を盛りて榊を植へ兩側に篝火を焚かれたり官民及び赤愛婦人會員は七時前後より續々參集したるが入口には受付を設けて參拜者氏名を受付けられたりやがて定刻の八時となるや振鈴を合圖に一同拜壇に向つて整列し祭壇の南側に建てられたる赤色電燈を合圖に一同最敬禮次で川浪神官の修禊式一同低頭次に本縣知事代理岸本内務部長及び佐賀市長代理嘉村助役拜詞を奏す(一同低頭)次で岸本知事代理、嘉村市長代理は遙拜式を代表して鞠躬如として祭壇に玉串を進献して敬禮同時に一同最敬禮(赤燭燈消燈)之れにて遙拜を終り退散せしが同夜は縣廳を初め各種官衙の吏員及び一般市民の參集するもの頗る多く何れもフロックコート若くは羽織袴の禮装に何れも喪章を付け一同靜肅にして最後の行啓に心中言ふべからざる無限の弔意を捧げたり

▲師範學校 佐賀縣師範學校に於る遙拜式は同校運動場に於て舉行せり祭壇は運動場の東北隅に白

砂を盛りて四圍に笹付の青竹を樹て之れに幔幕を廻し最と莊嚴なる祭壇を設けたり七時五十分頃一同參集し靜肅を極むる爲め一切の號令を廢し正八時を合圖に一同祭壇前に整列し式を初め先づ校長代理として張教頭は奉悼の辭を讀み次で一同奉悼歌を合唱し終て職員生徒總代として張教頭玉串を献進し次で一同最敬禮の上靜肅裡に式を終りたり

▲佐賀中學校 縣立佐賀中學校遙拜式は同校々庭に於て舉行せり祭壇は校庭の東北隅に設け生徒は七時半に集合し八時に到るや提灯を合圖に靜肅に祭壇前に整列し一同最敬禮の後職員二名宛一組となりて玉串を献進し次で生徒は各組委員總代にて玉串を捧げ終つて一同最敬禮にて式を閉づ時に八時四十分

▲工業學校 縣立佐賀工業學校の遙拜式は同校々庭に於て舉行式場は東北隅に設け四圍に忌竹を樹て幔幕を廻し籬を設けられたり七時五十分の時針を合圖に職員、生徒一同校庭に整列し正八時に至るや先づ竹内校長玉串を捧げ次で職員總代古賀教頭、校主總代川崎氏小使總代山田氏、生徒總代(一、

二、三年）四名の玉串献上あり一同最敬の後ち八時二十分式を閉ぢたり

▲農學校 縣立農學校の遙拜式は同校運動場に於て舉行せり祭壇は運動場の東方に設け中央に幣を樹て其前に三方を置き兩側に篝火を焚き八時に到るや職員、生徒一同東面して整列し一同最敬禮を爲し八時二十分式を閉ぢたり

▲商業學校 校庭に於て舉行せり校庭の東方に忌竹を樹て幔幕を廻し中央に八足の机を置き其前に席を敷きて祭壇と爲したり六時四十分一同同校控所に集合し七時に至るや祭壇前に整列し一同最敬禮の後橋本校長玉串を捧げ次で職員順次玉串を献進し終つて各組の委員總代は上級より下級に順次玉串を捧げ一同最敬禮を爲し八時頃式を閉ぢたり

▲龍谷中學校 私立龍谷中學校の遙拜式は同校運動場に於て舉行せり祭壇はグラウンドの東北隅に設け一切出入を禁じ七時半に同校前庭に一同集合し糸山職員の指揮の下に八時先づ職員祭壇場に進み次で提灯を合圖に生徒一同式場に整列し終るや島崎職員は祭壇に進み玉串を捧げ次で職員順次玉串

を献進し次に生徒は各組毎に前進して級長玉串を捧ぐると共に一同最敬禮し八時十五分式を終り五年級より順次退散せり尙ほ同校附屬の専修學院生徒は同日（晝間）願正寺に於て誦經したる後ち同校の遙拜式に加はりたり

▲成美女學校 同校運動場に於て舉行式場は四圍を幔幕にて張り廻し御靈所を場の東方に設置し四方に忌竹を樹て注連繩を張り其中央の壇上に幣を建てたり定刻職員及び在校生徒一同最敬禮の後ち江頭校長は玉串を捧げ引續き職員總代及び生徒總代の玉串献上あり次で一同奉悼歌を合唱して式を閉ぢたり

▲大立野稻荷教會所 佐賀郡久保田村字大立野稻荷教會所にて五月二十三日午後八時遙拜式を舉行せしが參列者は信徒總代、議員副長、村内男女百餘名にして教會長力久辰三郎氏祝詞朗讀各自玉串奉獻の後杉野軍醫の講演、國弘禪壽師の御坤徳に就きその講話ありて十一時閉式せり

▲日蓮宗聯合遙拜 市内高木町觀照院にては五月二十三日午後六時より縣下日蓮宗聯合にて 昭憲

●東京高工入學 東京高等工業學校へ本年九月十一日より入學を許可されたる者の内本縣人は左の二氏なり

▲工業圖案科 水町和三郎 ▲建築科 大石勇夫

●士官學校卒業 陸軍士官學校第二十六期生徒七百三十九名は五月二十八日卒業せしが内本縣人左の如し

江島常雄（近工兵隊）、須藤研治（騎十六）、米倉瀧男（重砲一）、田中秀（歩六）、森田春次（歩八）、大木知一（重砲三）、立川多郎（野砲十）、天本良造（歩十二）、山口秋十郎（歩六十二）、倉永泰春（歩四十七）、藤崎茂（歩七十二）武富武（歩二十四）、山崎清吉（重砲五）、早田德馬（重砲六）名尾固寛（歩六十六）、尊田弘（歩四十一）、吉丸清武、森末松（歩四十六）、小宮強、原和二郎（歩四十八）、野口齊（歩五十六）、西野貞光（野砲二十四）尙ほ歩兵第五十五聯隊の分左の如し

志波信孝、小川東海彦、佐々木清、川上芳雄、本田喜一、甲斐佐一

●五高卒業の本縣人 熊本第五高等學校に於ける

皇太后陛下御大葬遙拜式を舉行御堂には 昭憲皇太后陛下と大書したる位牌を一段高く安置しあり定刻焚鐘を合圖に七十有餘名の僧侶參拜者一同着席の後大衆準備、大衆昇堂、奉請偈、三寶禮、方僊品、切散華鏡鉢、神力品、眞讀あり次に録司小城郡三日月村勝妙寺住職平山海量師の奉悼詞敬讀あり次で久遠偈、參拜者一同の焼香、本尊砂、天晴地明文、唱題、寶塔偈、回向、三歸、奉答の後東向首題三唱一再敬禮後大衆下堂あり閉式せしは六時四十分なり

▲高等女學校 縣立佐賀高等女學校の遙拜式は五月二十三日午後三時より同校運動場に於て執行、定刻職員生徒及び補習科生式場に整列し一同敬禮の後校長代理大坪教頭の玉串献上に次で職員總代補習科生徒總代、生徒總代等玉串献上次で一同奉悼歌を合唱し終つて最敬禮にて靜肅裡に式を閉ぢ夫より同校講堂にて 皇太后陛下御眞影に對し最後の拜別式を行ひたり先づ大坪教頭開扉に職員一同拜禮、生徒一同拜禮、午後四時十分式を閉ぢたり

本年の卒業生は各科合計二百五十二名にして内本縣人は左の二十九名なり

▲第一部甲類 松隈國健、末次梧郎、狩野一郎、五十村貞俊、久原研吾、柳儀六

▲第一部乙類 片江秀雄、古賀次郎、古賀文雄

▲第一部丙類 北島謙次郎、光山盛負、宮崎進、大串啓二、大庭榮

▲第二部甲類 平川保一、張菅雄、中山廉、宇木甫、眞木績、洪讓、池上龍夫

▲第二部乙類 北村亮四郎、吉富英助、野口久吉

▲第三部 七田龍雄、岩野正雅、原撰、犬塚赫夫、古賀收藏

●熊本高工卒業 熊本高等工業學校第九回卒業生中本縣人は左の六氏なり

▲土木工學科 吉田常次、松本一郎、小林義一、西津菊郎

▲機械工學科 瀧秀雄

▲採鑛冶金學科 辰野勝

●高師入學試驗合格者 東京高等師範學校豫科入

學志願者試驗の結果選拔されたる者の中本縣人は數物化學部大塚岩市、博物學部梶原梅次郎の二氏なり

●陸軍紀念日祝賀會 佐賀歩兵第五十五聯隊に於ける陸軍紀念日祝賀會は三月十日午後二時半より同營内なる將校集會所に於て舉行せられたり、此日朝來天暗くして餘寒烈しく春雨今にも降り出でん模様なりしも同十時頃ともなれば天も此の日を祝するものゝ如く煦々たる日光を投げて參觀人の出足を促したり、營門高く交又せる二旒の國旗は北風に翻られてヒラヒラと、各中隊毎の造り物又美事に出來榮えて一段の光彩を添へぬ、定刻前來賓の會するもの本縣知事代理佐藤内務部長、長谷川、青木の兩陸軍少將、西野佐賀地方裁判所長、稻澤同檢事正、副島歩兵大佐、吉岡、富永兩歩兵少佐、好生館長大黒醫學博士、長谷川典獄、上村佐賀、中島杵島兩郡長、野口佐賀市長、田口縣會議長、下村市會議長、新聞記者其他地方有志數十名の多きに達し定刻となるや星野少佐の東道にて營門外練兵場に於ける餘興場に至れば第一陣

て快談酣なる頃長谷川少將の音頭にて 陸下の萬歳を三唱し一同乾盃を終へ夫より愈々酒興湧き聯隊將校酒間を斡旋して歡待に努め來賓又歡を盡し薄暮隨意散會せるは近頃稀れに見るの盛會なり

●佐賀商工會發會式 佐賀商工會發會式は四月三日即神武天皇祭日を以て佐賀高等小學校に於て舉行せり來會者二百餘名午前十一時二階講堂に着席古賀製次郎氏開會の辭を述べ來賓野口市長橋本商業學校長の祝辭演說あり古賀製次郎氏を推して座長となし會則を附義し左記三十四名の評議員を推選し顧問推選其他一切の事等は評議員に一任することにして決し以て會員の演說に移り川口榮次氏の演說下村辰右衛門氏の閉會の辭にて午後一時半閉式直に宴に移り各歡を盡して同二時半頃散會したり當日の來賓は野口市長、橋本商業、武田工業の各學校長徳永佐賀驛長及各新聞記者等にて頗る盛會なり

▲評議員 川口英次、大間治作、森永作平、古賀良輔、高岸武平、吉村吉郎、野中萬太郎、阿

碍物競争は開始さる、軍裝に身を堅めたる兵士十名が一組となり深堀を飛越えて丸木橋を渡り、高柵を攀ち登り、高壁を下り、又石垣を攀つる壯烈さは思はず參觀人をして手に汗を生ぜしむ、障碍物競争六組にて終了すれば本日餘興中の第一呼物たる奉天模擬戰闘演習は開始さる、砲壘近く張れる幾疊の鐵條網は難攻の當時を偲ばしめ前方約二千米突の遠く三寸の青麥盡くる邊り黒く點を打つが如く散在する攻撃軍の左翼は時熟せりと小銃の口を切て放てば守衛の兵又之に應戦し時の進と共に攻兵は枚を銜み兵を潜て漸次肉迫し來り約廿分にして奉天城を陥落せしむれば凱歌期せずして群集の間に起りて快絶言はん方なく凄さは只に北風の叫びのみなりさ夫より銃劍術及び擊劍、器械體操、角力等順次に行はれ午後四時祝賀の宴に入れり、開宴に先立ち長堀聯隊長は尤も簡單に奉天戰後の當時を述べ引ひて現世軍備の健全なるや否やに説き及ぼし最後に『吾人は勝つて兎の緒を締めざるべからず』と結びて挨拶に代へ次に佐藤内務部長は來賓一同を代表して答辭を述べ一同胸襟を寛し

部八百八、岸川松太郎、蒲原伊三郎、石井日出雄、木下猪之介、小部松太郎、秀島春一郎、橋本宗三郎、大島貞七、木下泰三郎、内田清一、中野莊平、西村小太郎、東島定一、古井辰次、谷口清八、吉田久太郎、伊丹彦次郎、福田慶四郎、太田米三郎、古賀製次郎、下村辰右衛門、中溝逸作、横尾雄一、相良安太郎、久保庄兵衛、中島源藏

尙同會閉會後に於て直に評議員會議を開き左の幹事に五名を選挙することとなり、古賀製次郎、下村辰右衛門、阿部八百八、吉村吉郎、川口榮次の諸氏當選せり尙は幹事互選の結果幹事長に古賀氏首席幹事に下村氏當選したり因に古賀製次郎氏は商工會基本金の内へ金壹百圓を寄贈されたり

●高等専門學校入卒業 本縣人にして各高等専門學校へ入學を許可されし者及び卒業せし者左の如し

○入學

▲山口高等商業學校 飯盛英男、石橋鎮雄、常

(本縣人)同校甲科師範科に假入學を許可せらる
●東京外國語學校入學 本縣人にして東京外國語學校へ入學を許可されしものは左の七氏なり

▲佛語學科、香月善次 ▲獨語學科、前山仁六

▲支那語學科 中島鐵次 ▲蒙古語學科 大島清

▲西語學科 江頭貞三 ▲獨語學科 相浦民雄 ▲

支那語學科 木下淺吉

●本縣米作の順位 大正二年に於ける米作の状況は何れの地方も豐作なりとの噂さ多かりしに其實收高は五千二十二萬九千九百三十五石にして大正元年に比するに僅かに七千四百二十六石の増收を見たるは之れ東北各縣に於ける天候不順の爲め凶作を來せしに因るものなり尙之を平年作に比すれば三十一萬九千八十石即ち六毛餘の増收を示すに至れり而して之を地方別に分布すれば實數に於ては新潟縣の二百四十三萬四千石第一位に福岡縣の二百四十萬八千石之に次ぎ吾佐賀縣は百二十八萬七千六百五十六石にして第十五位に相當せり更に面積一方里當收穫高を比較算出すれば大阪府の一萬六百廿九石第一位となり本縣は八千百卅五石に

富正道

▲名古屋高等工業學校 久原友一(土木科)岡四郎吉(建築科)武富茂志夫(色染科)三好甲子郎(同)

○卒業

▲東京高等師範學校 上野菊爾(本科地理歴史部)

▲廣島高等師範學校 高尾文八(地理歴史部)

▲東京女子高等師範學校 古賀マツヨ(文科)

●奈良女子高等師範學校 三月廿八日第二回卒業證書授與式を舉行せしが卒業者中本縣人は本科國語漢文科田代愛子佐久間松枝子水智トマ子同數物化學科山本サヲ子の四名なり

●東京美術學校 四月二日第廿三回卒業證書授與式舉行卒業生中本縣人は西洋畫科藤田遜、圖按科藤村彦四郎の二氏

●盛岡高等農林學校 入學許可せられたる本縣人は林學科永松喜一、井上博の兩氏

●東京音樂學校 佐賀縣立小城中學校小川研一氏

て第二位を占めつゝありと

●本年度清酒査定高 本縣の本年度(酒造)清酒査定高は七萬九千三百四十一石餘にして元年度査定高の六萬七千七百三十三石餘に比すれば一萬一千六百三十八石の増石を示したるが酒造年度初め(十月一日)見込高七萬三千二百二十二石より増石する事九千九十九石にして今年度の清酒査定高を所屬稅務署別及び各郡市別にすれば左の如し

所屬	市	郡	戸數	査定高
稅務署	佐賀市	戸數	査定高	
佐賀	佐賀市	二六	四、〇三八、八九九	
佐賀	小城郡	二二	八、六二三、〇二七	
佐賀	小倉郡	二二	九、六七九、八〇四	
佐賀	三養基	三九	四、九二五、九九〇	
佐賀	神埼郡	二一	一、五二〇、〇四九	
佐賀	杵島郡	二一	一、〇四二、六九二	
佐賀	藤津郡	二五	一、七三四、六二五	
佐賀	西松浦郡	二六	一、八五四、八八八	
佐賀	東松浦郡	二四	一、四二六、三七二	
合計		一三九	七九、三四一、五八七	

●學生取締事項 本縣の學生は所謂葉隠武士の遺風を受け武士道的氣風の上に於て大に觀るべきものありしが晩近時勢の風潮に伴ひ氣風一變醜行汚事相繼の情況にして誠に憂感に堪へざる狀態に陥

りつゝあるを以て各學校側は相互間に於て聯絡を取り市在住の諸有志は學生保護會を組織して互に戒飭する處あるも尙其の目的の貫徹容易ならざるを以て是等風紀を根本的に肅清刷新するの目的を以て六月十三日午後一時より縣廳内に岸本内務部長、松村學務兵事課長、長谷川青木兩少將、狩野代議士、横尾義男、野中義昌、嘉村彦四郎、杉町竹太郎の各保護會幹事、在市中等程度男女各學校長並主任職員、其他熊野御堂佐賀警察署長、徳永保安課長、學務主任、視學等會合種々協議を凝し具體的の成案を左の如く決議し各方面に亘りて連絡を保ち嚴正に之れが刷新を計りて根本的矯正を期することとし在市中校は十五日より之れを實行し尙引ひて縣下全般に亘りても同様取締を勵行する筈なりと云ふ

學生取締協議決定事項

- 一、左の件は警察に於て取締り關係學校長に必ず通知すること
イ、遊廓内に出入するもの
ロ、料理屋其他飲食物販賣店に於て飲食するもの

り生徒に注意し其賣店を警察に通知し警察に於て之を視察すること

(右大正三年六月十三日佐賀縣内務部長學務兵事課長以下學務兵事課員學生保護會長、副會長、幹事、評議員、佐賀警察署長、警察部保安課長、在市中等程度各學校長並に當該學校學生取締主任等佐賀縣廳に會合の上決定十五日より施行)

叙任辭令

(自大正三年三月至同六月)

二月二十八日官報抄錄

氣球隊附陸軍歩兵中尉 坂元 守吉
臨時軍用氣球研究會御用掛兼勤ナ命ス
歩兵第五十五聯隊附兼第十八師團經理部部員陸軍一等主計 濱崎 賀太
免本職補長崎重砲兵大隊附兼職如故
長崎重砲兵大隊附兼第十八師團經理部々員陸軍一等主計 堀 英矩
免本職補歩兵第五十五聯隊附兼職如故
三月二日官報抄錄
佐賀稅務署長從七位勳六等 福本 鶴松
叙正七位
叙任辭令

の

- ハ、俗歌を唱ふるもの
- ニ、喫烟を爲すもの
- ホ、酒氣を帯びたるもの
- ヘ、猥褻の行爲あるもの
- ト、喧嘩口論を爲すもの
- チ、多數學生集合して不穩の舉動あるとき
- リ、劇場に出入するもの但し特に學校に於て之を許可したる場合には其の都度警察に通知すること
- ヌ、猥に外泊するもの
- 二、生徒に對し放校或は諭示退學の處分を爲したるときは必ず警察に通知すること(生徒の本籍地の警察にも通知すること)但し本項は過去にも遡ること
- 三、警察に於て學生の不正なる行動を認めたるときは細大漏さず其關係學校長に通知すること
- 四、各學校長は其生徒心得を警察に通知し置くこと
- 五、不都合の賣店(文房具店等)に就きては學校より

叙正八位(各通)

佐賀縣屬 諸 限 宗 雄
佐賀縣技手兼屬 關 誠 一
佐賀郡書記 眞崎賴次郎
三養基郡書記勳七等 立川 只之

叙從八位(各通)

正六位勳六等 高取安太郎

叙正六位 從六位 井 內 勇

叙正七位 從七位 末 次 政 一

叙正七位 從七位 平 山 縣

陸軍憲兵中尉從七位 野 中 政 市

任朝鮮總督府警視 步兵第十二旅團副官陸軍歩兵中尉 中 原 政 次

免本職補歩兵第四十七聯隊附 攝津機關長海軍機關大佐 野 口 興 國

橫須賀鎮守府附被仰付 步兵第四十七聯隊附陸軍歩兵中尉 本 告 惣 市

免本職補歩兵第四十七聯隊大隊副官 山 田 喜 藏

本村千代太

北島 卓 美

江口 四 郎

辻 演 武

眞崎久滿雄

叙任命令

豐島忠夫 叙勳三等授瑞寶章
在外海底電信ノ功ニ依ル
東宮御學問所副總裁被仰付
東宮太夫男爵 波多野敬直
海軍大佐子爵 小笠原長生
江口眞十 叙正五位
大坪忠國 叙正五位
横尾熊雄 叙從五位
田中時馬 叙從五位
増田彌作 叙正六位
堤雄平 叙從六位
井上茂 叙從六位
小野政二 叙正七位
山崎敏郎 叙正七位
小川義孝 叙正七位
森本五郎 叙正七位
吉田 叙正七位
辻一 叙正七位
中野眞雄 叙正七位
野田正俊 叙正七位
長野金兵衛 叙正七位
西川五郎 叙正七位
田中次郎 叙正七位
叙正八位(各通)
正五位勳四等 田中次郎
叙正四位(特旨ヲ以テ位一級被進)叙勳四等授瑞寶章
富士艦長兼横須賀海兵團長海軍大佐 原 靜 香
免本職并兼職補横須賀海軍港務部長
免本職待命被仰付 吳海軍工廠長海軍中將 村上格一
衛生試験所技師藥學博士 田原良純
陸軍砲兵中佐 島内國彦
東京帝國大學工科大學教授工學博士 田中不二
京都高等工藝學校教授 本野精吾
東京音樂學校校長 湯原元一
東京大正博覽會審査官ヲ囑託セラル
四月二十九日
休職福島縣知事 西久保弘道
北海道長官 中村純九郎
陸軍騎兵中佐男爵 鍋島直明
免本職補軍事參議官副官 步兵第五十七聯隊附陸軍歩兵中尉 百武晴吉
軍事參議官陸軍大將男爵淺田信興附屬被仰付
第一特命檢閱使屬員被仰付 陸軍歩兵中尉正七位勳六等 横尾 平
任陸軍歩兵大尉
退職判事從四位勳五等 荒木博臣
叙任命令
百五十八

免本職並兼職軍事研究トシテ獨國駐在被仰付

兼任岡山縣警視 叙高等官七等

兼補舞鶴鎮守府參謀兼學樓監督官海軍少佐 古賀 琢一

兼補舞鶴鎮守府文庫主管

補旅順要港部副官

補横須賀鎮守府附

海軍經理學校選科學生被免補海軍煉炭製造所主計長

任宮内大臣

任内閣總理大臣兼內務大臣

任遞信大臣

任内閣總理大臣秘書官兼內務大臣秘書官(高等官三等)

大裏使事務官被仰付

四月十九日

叙任命令

叙任辭令

叙勳四等授瑞寶章(各通)

從五位勳四等功四級 竹下宣行

叙勳三等授瑞寶章(各通)

從五位勳四等功四級 加藤豐三郎

叙勳四等授瑞寶章(各通)

從六位勳五等功五級 千代松精一

免兼地方海員審判所長

從六位勳五等 押川公實

大喪儀ニ付 天皇陛下御名代戴仁親王殿下隨行ヲ命ス

從六位勳五等 我妻孝助

大喪儀ニ付 傅恭王殿下隨從京都府下へ出張ヲ命ス

皇族附武官 武富成一

大喪儀ニ付 恒久王殿下隨從京都府下へ出張ヲ命ス

皇族附武官 福田義彌

叙從五位

正六位勳三等 島内源一郎

叙從五位

從六位勳四等功五級 石井彌四郎

叙正六位(各通)

從六位勳四等功五級 福田義彌

叙正六位(各通)

從六位勳五等 山田孫三

叙正六位(各通)

從六位 常吉德壽

叙正六位(各通)

免本職補宇治艦長

免本職補宇治艦長

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

正七位勳五等 川副竹二

正七位勳五等 石井十郎

正七位勳五等 角廉吉

正七位勳六等 竹下源六

從七位勳六等 弓削巖

大湊要港部參謀長海軍大佐 志津田定一郎

海軍大佐 川原製裝太郎

河内副長海軍中佐 金丸清耕

第六驅逐隊司令海軍中佐 生野太郎八

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

免本職並兼職橫須賀鎮守府附被仰付

叙任辭令

海軍大尉 白 木 豐
海軍砲術學校特修科學生教程卒業ニ付學生被免、補海軍艦政本部
機裝員

海軍大尉 木 村 政 吉
海軍砲術學校特修科學生教程卒業ニ付學生被免、海軍水雷學校特修
科學生被仰付

海軍大尉 澤 野 源 四 郎
海軍大尉 白 石 邦 夫
海軍中尉 古 賀 七 三 郎
海軍中尉 大 島 四 郎

海軍大尉 松 尾 彌 右 衛 門
海軍大尉 今 泉 周 逸
海軍中尉 小 柳 喜 三 郎
海軍大尉 松 尾 彌 右 衛 門

海軍大尉 松 永 次 郎
海軍中尉 直 塚 八 郎
海軍少尉 野 中 善 雄
海軍少尉 大 塚 幹
海軍少尉 山 崎 助 一
海軍少尉 田 尻 種 彦

海軍砲術學校普通科學生教程卒業ニ付學生被免、海軍砲術學校高等科學
生被仰付
海軍機關學校普通科學生教程卒業ニ付學生被免、海軍水雷學校普通
科學生被仰付

科學生被仰付

海軍少尉 武 村 盛
海軍少尉 中 島 寅 彦
海軍少尉 安 住 義 一

海軍水雷學校普通科學生教程卒業ニ付學生被免、海軍砲術學校普通
科學生被仰付
海軍煉炭製造所所員海軍機關大尉 中 島 英 次
免本職補第二驅逐隊機關長
佐世保鎮守府附兼佐世保海
軍人事務部員海軍機關大尉 田 中 謙 治
免本職並兼職補海軍軍令部出仕
佐世保海兵團分隊長海軍機關大尉 西 川 虎 太 郎
免本職補海軍煉炭製造所所員

海軍機關大尉 大 石 平 次
海軍機關學校特修科學生教程卒業ニ付學生被免、補鞍馬分隊長
河内分隊長海軍機關大尉 橫 尾 道 春
免本職、海軍機關學校特修科學生被仰付
免本職、海軍機關學校普通科學生教程卒業ニ付學生被免、補第十驅逐隊附
海軍機關中尉 大 塚 清 吉
海軍機關少尉 富 田 一
海軍機關學校普通科學生教程卒業ニ付學生被免、補第十二驅逐隊
附
海軍機關中尉 吉 田 又 九 郎

海軍機關學校普通科學生教程卒業ニ付學生被免、橫須賀鎮守府附被仰付
第五驅逐隊附海軍機關中尉 山 田 茂
免本職、海軍機關學校普通科學生被仰付
舞鶴海軍病院附兼看護術
練習所教官海軍軍醫少監 松 隈 武 次
免本職並兼職補鞍馬軍醫長
海軍經理學校軍醫長兼教官海軍
軍醫學校教官監事海軍軍醫少監 於 保 熊 雄
免本職並兼職補三笠軍醫長
明石軍醫長海軍大軍醫 山 口 一 次
免本職、海軍軍醫學校甲種學生被仰付
矢矧主計長海軍大主計 名 尾 玄 乘

叙任辭令

海軍經理學校主計長兼監事教官海軍
大學校主計長海軍軍醫學校主計長海
軍艦型試驗所主計長海軍大主計 藤 山 文 三
免兼海軍大學校主計長海軍軍醫學校主計長 海軍艦型試驗所主計長
海軍少主計候補生 橫 尾 石 夫
海軍經理學校乙種學生教程卒業ニ付學生ヲ免シ金剛乘組ヲ命ス
海軍少主計候補生 清 水 辰 二
海軍經理學校乙種學生教程卒業ニ付學生ヲ免シ千歳乘組ヲ命ス
五月三十日
海軍中將 村 上 格 一
補海軍艦政本部長兼海軍將官會議々員
海軍大佐 秀 島 成 忠
任海軍少將待命被仰付
陸軍一等軍醫 牟 田 熊 彦

豫備役被仰付

免本職須賀鎮守府附補高千穂艦長
吳海軍工廠検査官海軍機關大佐 江 越 孝 太 郎
免本職補須賀鎮守府艦隊機關長
第四驅逐隊機關長海軍機關大尉 藤 井 信 夫
免本職補第十二驅逐隊機關長
獨逸駐在陸軍歩兵少佐 眞 崎 甚 三 郎
免本職補歩兵第四十二聯隊大隊長
六月十日

海軍大佐 伊 東 祐 保

免本職、海軍大尉 松 永 次 郎
海軍中尉 直 塚 八 郎
海軍少尉 野 中 善 雄
海軍少尉 大 塚 幹
海軍少尉 山 崎 助 一
海軍少尉 田 尻 種 彦
海軍砲術學校普通科學生教程卒業ニ付學生被免、海軍砲術學校高等科學
生被仰付
海軍機關學校普通科學生教程卒業ニ付學生被免、海軍水雷學校普通
科學生被仰付

海軍大尉 松 永 次 郎
海軍中尉 直 塚 八 郎
海軍少尉 野 中 善 雄
海軍少尉 大 塚 幹
海軍少尉 山 崎 助 一
海軍少尉 田 尻 種 彦

海軍大尉 松 永 次 郎
海軍中尉 直 塚 八 郎
海軍少尉 野 中 善 雄
海軍少尉 大 塚 幹
海軍少尉 山 崎 助 一
海軍少尉 田 尻 種 彦

海軍大尉 松 永 次 郎
海軍中尉 直 塚 八 郎
海軍少尉 野 中 善 雄
海軍少尉 大 塚 幹
海軍少尉 山 崎 助 一
海軍少尉 田 尻 種 彦

海軍大尉 松 永 次 郎
海軍中尉 直 塚 八 郎
海軍少尉 野 中 善 雄
海軍少尉 大 塚 幹
海軍少尉 山 崎 助 一
海軍少尉 田 尻 種 彦

海軍大尉 松 永 次 郎
海軍中尉 直 塚 八 郎
海軍少尉 野 中 善 雄
海軍少尉 大 塚 幹
海軍少尉 山 崎 助 一
海軍少尉 田 尻 種 彦

海軍大尉 松 永 次 郎
海軍中尉 直 塚 八 郎
海軍少尉 野 中 善 雄
海軍少尉 大 塚 幹
海軍少尉 山 崎 助 一
海軍少尉 田 尻 種 彦

叙任辭令

豫備役被仰付

叙任辭令

百六十六

陸軍歩兵少尉正八位 藤山三郎
陸軍歩兵少尉正八位 滿江寅次郎
陸軍歩兵少尉正八位 關義廣
陸軍歩兵少尉正八位 西岡延一

四級俸下賜
六級俸下賜
六級俸下賜

滋賀縣警察部長 紀伊寛平
佐賀縣警察部長 二本千年
宮城縣理事官 池田秀雄
陸軍二等獸醫從七位 中山讓

任陸軍歩兵中尉(各通)
陸軍砲兵少尉正八位 川副源吾

任陸軍一等獸醫
陸軍士官學校教官兼同校生徒隊付歩兵少佐 木下文次

任陸軍砲兵中尉
侍從武官 松村純一
吳鎮守府所屬潜水艇隊並水雷艇隊魚雷戰團發射實視トシテ同演習地へ被差遣

叙從五位
叙正六位
叙正七位
叙正七位
正六位勳三等功四級 古賀太吉
從六位勳六等 後藤祐明
從七位 藤山竹一
從七位 佐藤七太郎
叙正七位 下村充郎
叙從七位 福地榮

陸軍技術審査部御用掛ヲ命ス
陸軍砲兵少佐 幸田準三郎

陸軍砲兵少佐 幸田準三郎

判事 柳川勝二
司法省參事官 池田寅二郎

陸軍高等官五等
六月二十七日
特命全權公使從四位勳三等 鍋島桂次郎

判事檢事登用第一回試験委員ヲ命ス
大正三年辯護士試験委員ヲ命ス

陸軍主計監正五位勳三等功四級 鶴田義紹

正五位勳四等 西久保弘道
正五位勳三等功四級 鶴田義紹

自耳義駐劄罷免
六月二十七日
大藏省理財局長 山崎四男六

叙從四位(各通)
陸軍主計監正五位勳三等功四級 鶴田義紹

任內藏頭(一等)
別當兼皇后宮主事 馬場三郎

特旨ヲ以テ位一級被進
叙從六位
二級俸下賜
二級俸下賜

正七位 紀伊寛平
佐賀縣知事 不破彦麿
佐賀縣知事 若林資藏

肥前協會錄事及支部報告

○肥前協會規則

第一條 本會は舊藩人並佐賀縣人の一致協同を維持し其公共の利益を進むるを以て目的とす
第二條 前條の目的を達する方法は時の必要に應じ評議員の協議に基づき會長の決する所に依る
第三條 本會の趣意を賛成する者を以て會員とす
第四條 本會に左の職員を置く

會長 一人 名譽評議員 若干人 評議員 若干人
幹事 五人以上 書記 二人

第五條 會長は鍋島侯爵の選定に依る 名譽評議員及評議員は會長之を選定す

第六條 幹事は評議員中より會長之を指定す 但其任期は一箇年とす

第七條 會長は本會の事務を總理す

第八條 幹事は會長の指揮を受け書記は幹事の指揮を受け會務に従事す

第九條 書記に相當の報酬を給す

第十條 便宜の場所に本會の事務所を設く

第十一條 毎月一回評議員會を開く

第十二條 名譽評議員及評議員は毎月壹圓を出金す可し

第十三條 會員は會費として一箇年貳圓四拾錢を前納す可し

第十四條 本會の記事は之を『佐賀』に掲載し會員に頒つ

第十五條 各地方便宜の場所に於て本會の支部を設くることある可し

事務所 東京市麴町區永田町二丁目七十五番地

(電話新橋二三三二番 伊 東)

○肥前協會錄事

一、大正三年四月十九日 評議員荒木博臣氏逝去に付香奠及左記の弔詞を呈す

本會評議員正四位勳四等荒木博臣君の遠逝を聞き哀悼の情に堪へず茲に謹而弔詞を呈す

大正三年四月十九日 肥前協會々々長 伯爵 大 隈 重 信

一、四月二十日 評議員荒木博臣氏葬儀に付青山齋場に會葬す

一、五月七日 會員入江俊次郎氏逝去に付左記の弔詞を呈す

本會々員入江俊次郎君の遠逝を聞き哀悼の情に堪へず茲に謹而弔詞を呈す

大正三年五月七日 肥前協會々々長 伯爵 大 隈 重 信

一、五月二十一日 通常會員糸山貞規、武藤信義兩氏及中村無一氏を評議員に推薦す

一、六月九日 通常會員百田健次郎氏逝去に付左記の弔詞を呈す

本會々員百田健次郎君の遠逝を聞き哀悼の情に堪へず茲に謹而弔詞を呈す

大正三年六月九日 肥前協會々々長 伯爵 大 隈 重 信

一、同日 通常會員崎川才四郎氏を評議員に推薦す

一、六月二十五日 評議員大塚琢造氏逝去に付香奠及左記の弔詞を呈し府下巢鴨町染井泰宗寺に會葬す

本會評議員大塚琢造君の遠逝を聞き哀悼の情に堪へず茲に謹而弔詞を呈す

肥前協會錄事

大正三年六月二十五日

肥前協會々長 伯爵 大隈 重信

○上海支部報告

一、大正三年二月二十二日(日曜晴天) 機關候補生練習艦津輕艦長南里大佐以下將校並に雜誌青年の日本主幹川浪利吉氏の歡迎會を六三亭に於て開催せり午後八時一同着席するや川浪氏の依頼により一同寫影す(之の寫眞は同雜誌上海號中に挿入の筈)次ひて副島幹事開會の畧辭を述べ南里艦長之れに答ふる所あり興酣なるの頃川浪氏立つて佐賀獨得の劍舞あり乾盃又乾盃絃歌湧き歡聲絶へず一同興を盡して散會せしは午後十一時頃なりき同日の出席者左の如し

來賓

海軍大佐南里團一、同大尉村松定矩、同大尉大島平、同中尉田尻旭一
青年の日本主幹川浪利吉の五氏

主人側

増田、中島、副島、塚原、南里、井手、西山の七氏

一、六月二十日午後六時より東亞同文書院卒業生諸氏の送別を兼ね支部大會を日本人俱樂部にて開催す來會するもの貳拾名席定まると共に理事より卒業生諸氏に對する祝辭會務の報告及新會員の紹介あり

卒業生一同を代表して澤西傳君謝辭を述べ宴に移る宴會は時尚諒闇中にあるを以て専ら質素を旨とし一切の餘興等を廢したれども盃を重ねるに従ひ放談縱横和氣滿堂理事の發議にて卒業生諸氏の前途を祝福する爲一同乾盃次いで不日出發大旅行の途に上る同文書院學生二君の一路平安を祈り再度乾盃八時宴を撤し別室にて喫茶談笑十二分の歡を盡して散會す

當日の來會者左の如し

増田 高 賴	塚原嘉一郎	南里 佐一郎	井 手 清
八谷 時次郎	池田 利 作	加藤 日 吉	樋口 良 助
久本 吉 次	富永 万 吉	築山まさ子	澤 西 傳
平 野 馨	大園辰四郎	伊 東 友 治	古川 壽 八
野 口 小 三	樋 口 勇	理事 副島綱雄 理事 西山嘉六	

本年度同文書院卒業生左の如し(いろは順)

大園辰四郎 澤 西 傳 平 野 馨

本年度同文書院大旅行出發者左の如し

伊 藤 友 治 古 川 壽 八

右兩君の旅地域は安徽河南にして豫定日數七十日其の豫定行路左の如し

支部報告

四

上海より浦口―滁州―全椒―廬州―正陽關―霍邱―固始―光州―羅山―信陽―鄭州―開封―陳留―杞―睢―歸德―虞城―碭山―徐州―天津―上海

本支部同文書部大體計出席者次の如し

大岡 元四郎

新 西

新 西

平 理

平 理

本支部同文書部卒業生次の如し(こゝに附)

櫻 口 小 三

新 西

新 西

平 理

平 理

平 理

大岡 元四郎

新 西

平 理

平 理

大岡 元四郎

新 西

新 西

平 理

平 理

大岡 元四郎

新 西

新 西

平 理

平 理

大岡 元四郎

新 西

新 西

平 理

平 理

大岡 元四郎

新 西

新 西

平 理

平 理

大岡 元四郎

新 西

新 西

平 理

平 理

大岡 元四郎

新 西

新 西

平 理

平 理

大岡 元四郎

新 西

新 西

平 理

平 理

閑叟公御銅像建設費及寄附金額報告書

東京市麴町區永田町二丁目七十五番地

閑叟公御銅像建設事務所

(電話 新橋二、三五二番伊東)

御銅像建設費收入及支出現計

入		收		科
東京事務所		佐賀事務所		
總計	合	合	合	目
	雜利侯寄寄越 收爵附金一 入子企拂拂高	東京受鏡雜利寄越 事務負人身元保證 所ヨリ金代入子金高	東京受鏡雜利寄越 事務負人身元保證 所ヨリ金代入子金高	
一〇七四九八三〇八	四二二八三二一〇 四、七七〇	六五二一五〇九八	四、〇〇〇〇〇	最初ヨリ大正二年 十二月三十一日迄
一〇七四九八三〇八	四二二八三二一〇 四、七七〇	六五二一五〇九八	四、〇〇〇〇〇	大正三年一月ヨリ 六月三十日迄
一〇七四九八三〇八	四二二八三二一〇 四、七七〇	六五二一五〇九八	四、〇〇〇〇〇	合 計

大正三年七月

御銅像建設佐賀委員長座
同東京專務委員會計主任
神代直
伊東祐
穀寶

總 計	金				殘				科 目				
	合 計	東 京 事 務 所			合 計	佐 賀 事 務 所							
		小 計	現 金	振 替 金		東 海 銀 行 預 金	小 計	現 金		振 替 金	貯 蓄 銀 座	實 業 銀 行	榮 實 業 銀 行
一〇七、四九八、三〇八	一九、二七八、五四八	二、三〇八、二七五	一五八、九三〇 三四、三〇五	二、一五〇、四〇〇 —	一六、九七〇、二七三	二、一五一	五、一六九、〇五 七、二二六、三三七	五、一六九、〇五 七、二二六、三三七	六、五八七、八九〇 五、三五四、四一〇 一、六〇七、五一〇 二、一五八、四一〇	六、五八七、八九〇 五、三五四、四一〇 一、六〇七、五一〇 二、一五八、四一〇	六、五八七、八九〇 五、三五四、四一〇 一、六〇七、五一〇 二、一五八、四一〇	六、五八七、八九〇 五、三五四、四一〇 一、六〇七、五一〇 二、一五八、四一〇	六、五八七、八九〇 五、三五四、四一〇 一、六〇七、五一〇 二、一五八、四一〇
二、一〇一、二七五	一七、八三三、五五八	二、一〇一、二七五	—	一、八〇〇、九四〇 一、七七六、一〇	一五、八二一、八三三	二、一九〇、二	七、四九五 七、七七〇、六	七、四九五 七、七七〇、六	五、七二四、八二〇 五、五四三、七七〇 一、六五六、一三〇 二、〇三〇、一〇	五、七二四、八二〇 五、五四三、七七〇 一、六五六、一三〇 二、〇三〇、一〇	五、七二四、八二〇 五、五四三、七七〇 一、六五六、一三〇 二、〇三〇、一〇	五、七二四、八二〇 五、五四三、七七〇 一、六五六、一三〇 二、〇三〇、一〇	五、七二四、八二〇 五、五四三、七七〇 一、六五六、一三〇 二、〇三〇、一〇
一〇九、三五六、四一三	一七、八三三、五五八	二、一〇一、二七五	—	一、八〇〇、九四〇 一、七七六、一〇	一五、八二一、八三三	二、一九〇、二	七、四九五 七、七七〇、六	七、四九五 七、七七〇、六	五、七二四、八二〇 五、五四三、七七〇 一、六五六、一三〇 二、〇三〇、一〇	五、七二四、八二〇 五、五四三、七七〇 一、六五六、一三〇 二、〇三〇、一〇	五、七二四、八二〇 五、五四三、七七〇 一、六五六、一三〇 二、〇三〇、一〇	五、七二四、八二〇 五、五四三、七七〇 一、六五六、一三〇 二、〇三〇、一〇	五、七二四、八二〇 五、五四三、七七〇 一、六五六、一三〇 二、〇三〇、一〇

四

又金額ノ下〇印ハ分割拂込ノ結果全額領收済ナルヲ示ス

[illegible]

五

代富吉 池田 内田 田中 森中 深川 八坂 大島 西島 鍋島 牧中 浦島 村上 東川 家永 西村 木下 藤岡 夏秋 長谷 中野 石井 將塚 土山
カ吉 田 田 中 中 川 坂 島 島 中 島 上 川 永 村 下 岡 秋 谷 野 井 塚 山
ス改 實 齊 吉 賢 榮 甚 英 茂 永 堅 格 登 泰 龍 新 三 徳 良 萬 校 信 虎
ラ造 康 藏 郎 吾 三 衛 門 七 郎 昌 吉 村 郎 雲 郎 助 衛 一 道 次 郎 團 四 郎
行
銀
行

中諸松高北近前南朝坂關野湯中有牟鳴執宇若鶴小石田福武千坂中片
 尾岡田洲島藤鹿日田中原村田田打行都田副九原田富住井村岡
 敬通平謹佐太之島胤春萬純口龜宮木川慶武郁
 太通平謹佐太之島胤春萬純口龜宮木川慶武郁
 郎素治一八郎助村慎雄英郎一郎資學郎道郎村丑治義純郎鼎郎一郎一輔

秀丹副寺兵大土神宮久成小角古秀納松眞宮田千廣山眞西成藤野松
 島羽島田動野山代副米松太力賀島崎崎崎布渡崎郎郎村甲彌井村
 千延清綱豐哲三兵一杉建幸成安文仁政次高顯練松元謙子太
 熊太一郎繁江四三郎衛郎郎陳西三忠定六六吉郎成展六村誠一郎郎擴
 六郎一繁江四三郎衛郎郎

大坂	西	吉	藤	水	牟	武	小	愛	佐	川	永	中	白	相	青	木	池	秀	石	森	石	關
串	久	山	山	尾	田	林	富	野	留	崎	九	溝	井	浦	木	塚	島	善	井	山	富	關
勝	保	熊	雷	敬	芳	時	次	志	要	辰	德	安	助	次	虎	保	磯	太	太	定	亮	勝
左衛門	弘道	平彦	吾	和	郎	敏	村	村	郎	雄	郎	治	郎	郎	郎	市	浦	郎	郎	郎	英	郎

一一一一

[illegible]

△	△	△	△	△	△	△	△
二・二・三	二・一・一	二・一・一	二・一・一	二・一・一	二・一・一	二・〇・二六	二・〇・二〇
佐賀市	佐賀市	佐賀市	神埼	神埼	佐賀市	佐賀市	杵島 小城

富鍋島橋藤古古坂蒲平木川横熊住
永島田本山人澤田原川下原尾崎吉
與資代榮ス紋平一三兵久ラ仁爲
郎高子八子三太郎衛治子平助

金五拾圓也	△二二一六	佐賀市
金五拾圓也	△二二一七	西松浦
金五拾圓也	×三二二七	朝鮮
金五拾圓也	×三三三三	朝鮮
金五拾圓也	×三三一六	朝鮮
金五拾圓也	×三五九	杵島
金五拾圓也	×三六六	臺灣
金五拾圓也	×三六二九	東京
金五拾圓也	×三七九	佐賀郡

金參萬八千九百貳圓拾五錢六厘也

金五拾圓以下 五千三百四十六名

總計金九萬千九百八拾圓八拾五錢六厘也 五千七百三十七名

內金五萬參千四百七拾壹圓參拾錢六厘也 四千五百四十六名在賀事務所拔

金參萬八千五百九圓五拾五錢也 千七百七十九名 東京事務所拔

[illegible]

△四五、六、一	杵島
×四五、六、一七	東京
×四五、六、二二	廣島
×四五、六、三〇	福岡
×四五、七、四	東京
△四五、七、五	佐賀市
×四五、七、六	福岡
△四五、七、三	大阪
×四五、七、九	東京
×四五、七、九	東京
△四五、七、二二	佐賀郡
×四五、七、二五	東京
×元、八、一五	東京
×元、八、四	東京
△元、八、二四	佐賀郡
△元、〇、三	佐賀市
△元、〇、三	佐賀市
△元、〇、三五	佐賀市
×元、一、一	東京
△元、一、一	東京
×元、一、一八	西松浦
△元、一、一八	神奈川
△元、一、二八	長崎
×元、一、二八	佐賀郡
×元、一、二	東京
×元、一、二、四	東京
△元、一、二、〇	佐賀郡
△元、一、二、一	大阪
△元、一、二、一	大阪
△元、一、二、四	佐賀市

上古川堤	馬副雪高江深向澤吉吉關田石山坂福中菊伊宇橋松晴藤鶴橋
村浪渡島竹木口井田田	中黑崎地溝地本本本村氣本
賀虎武	猪鶴嘉常傾宗秀禎下
春太俊義範與麟忠彌種	太景之規太秀祐太三龍市四
甫英郎司猷一治作六次一親子郎甫郎助貞郎周郎俊郎雄三郎郎村	

[illegible][illegible]

江前保犬新平内野執金古辻西石小中北水岩千辻原深糸吉安橫永今上
口田丸夕野田依行武賀山川野島村町松佳田江山島重藤義
綱市市助次清範太良保治兵又專善太三玄助婆九三文太藤義
一熊眞郎次郎郎藏治郎夫高郎衛八助之郎郎十七六郎郎吾郎太勇郎義
市市直次郎郎郎郎郎郎郎郎郎郎郎郎郎郎郎郎郎郎郎郎郎郎郎郎郎郎

佐賀

第七十八號

佐賀郷友青年會



大正三十八年十一月十五日發行

氏名	申込額	拂込額	氏名	申込額	拂込額	氏名	申込額	拂込額
内山邦彦	11.000	4.000	高島雄	5.000		吉良玄淵	5.000	
森清亮	11.000		山崎平虎	5.000		吉田松市	5.000	
古賀峰一	11.000		野中政一	5.000		森田太	5.000	
波多野二	11.000		立野恒一	5.000		西岡倫	5.000	
古川幸一	11.000		野副正	5.000		小出末三	5.000	
小森秀一	11.000		丸山龜	5.000		福田元一	5.000	
岡里俊太	11.000		中島廣	5.000		奥村勢	5.000	
岡田松逸	11.000		庭木喜一	5.000		立石豐造	5.000	
池田又四郎	11.000		井手忠	5.000		石井安次郎	5.000	
小代喜重	11.000		松田常	5.000		中島生兵衛	5.000	
前田喜子	11.000		今泉周	5.000		小笠原長彦	5.000	
峯敏太	11.000		光野次	5.000		豐田伸一	5.000	
萩原一	11.000		北尾常	5.000		川上政一	5.000	
碓氷平	11.000		山口六	5.000		中田一	5.000	
西川辰	11.000		樋口良	5.000		江口長左衛門	5.000	
藤崎芳	11.000		幸田重	5.000		清水信	5.000	
黒岩久	11.000		大木太	5.000		居石仁三	5.000	
吉好今	11.000		梶原梅	5.000		小野貞一	5.000	
三田次	11.000		前田九	5.000		山田増	5.000	
百田次	11.000		馬場二	5.000		西川慶一	5.000	
森忠藏	11.000		原健太	5.000		堤清	5.000	
横尾求也	11.000		緒方文吉	5.000				
小原林	11.000							
合計	310.700	79.870	合計	310.700	79.870	合計	310.700	79.870